

研究内容と成果(うつ病に関する例)

課題

うつ病治療の推進

早期発見

治療

社会復帰

自殺予防

うつ病の診断は精神医学的診察を基に行われており、客観的な指標が乏しい

うつ病に対する標準的な薬物治療や薬物療法以外の治療の普及が十分ではない

うつ病患者等に対する有効な自殺対策についてのエビデンスは乏しい。

厚生労働科学研究の実施状況と成果の例

●プライマリーケアで使用可能な、DNAチップを用いたうつ病の診断指標の作成
(研究代表者 大森哲郎)

うつ病患者の末梢血白血球で、特定の遺伝子群の発現低下を見いだした。将来、診断への活用が期待される。

●「脳画像にもとづく精神疾患の「臨床病期」概念の確立と適切な治療・予防法の選択への応用についての研究」(研究代表者 福田正人) 等

「光トポグラフィー検査を用いたうつ状態の鑑別診断補助」が先進医療として承認 (H21.4)

●精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究(研究代表者 加藤元一郎)

●精神療法の実施方法と有効性に関する研究(研究代表者 大野裕)

●リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括的治療に関する研究(研究代表者 秋山剛)

等

治療効果の比較・検証のための臨床研究を実施中

●自殺未遂者および自殺遺族等へのケアに関する研究(研究代表者 伊藤弘人)

自殺未遂者や自死遺族のケアについて、医療従事者や行政関係者向けガイドラインを作成し周知(H21.4)

●自殺対策のための戦略研究 等

救命救急センターでの自殺企図者等に対する精神保健指定医の関与が「救命救急入院料の加算」として保険点数化(H20.4)

②研究について

現状と課題

- 精神疾患の国民における疾病負荷は大きく、治療法の開発等に向けた研究への期待は大きい。
- 厚生労働省における精神疾患関連の研究費は、平成14年頃までに大幅に増額したが、近年はほぼ横ばいの傾向となっている。
- 統合失調症、うつ病、発達障害、自殺等、様々な疾患等について、病態の解明、診断・治療法の開発・確立、精神保健医療福祉施策の立案に関する研究等、幅広い領域にわたる研究が行われており、近年は研究課題数が増加する傾向にある。
- 政府の研究費は、近年は全体として横ばい傾向にあり、競争的に研究資源の獲得を図るためには、より大きな成果が上がるよう、効果的に研究を行う必要がある。

今後の方向性

- 精神保健医療福祉施策の改革を強力に推進するため、施策の企画、立案、検証等に資する調査研究については、確実な実施を図るべきではないか。
- 国民の疾病負荷の軽減に資するよう、精神疾患の病態の解明と共に、診断・治療法に関する研究を、競争的資金を活用して、活発に行うべきではないか。特に、治療法の確立や、医療水準の向上に資するよう、質の高い臨床研究を推進するべきではないか。
- このため、精神疾患に関する研究費の確保に一層努めるとともに、国立精神・神経センター等の基幹的な研究機関を最大限に活用しつつ、研究の推進を図るべきではないか。